

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072100559		
法人名	社会福祉法人 紀成福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム サニーワン (ふらわーはうす)		
所在地	和歌山県日高郡日高川町大字初湯川213番地-1		
自己評価作成日	令和3年 1月14日	評価結果市町村受理日	令和3年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=3072100559-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症の為令和2年度は、地域の方々との交流はできませんでしたが、施設周辺は自然がいっぱいで、入居者様の部屋からも季節を感じられる場所です。季節の行事として庭園での桜の花見、縮小した夏祭り、花植え、車中からの紅葉見物、ドライブ等行っています。七夕飾り、焼き芋、クリスマス会、しめ縄作り、干し柿作りは、サークルやレクレーションで行っています。ユニット内では、お誕生日会、トランプ、カルタ取り、卓球等行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然に囲まれる中、鳥のさえずりが聞こえ、夏には蝉の声秋には虫の音など、四季折々の変化を肌で感じることができる環境である。コロナ禍により外出する機会を得ることが難しいが、ドライブを楽しんだり、ホーム内で出前カフェを楽しんだりと入居者に喜んでもらう工夫を絶えずされている。幅広い年代の職員が在籍し、男性・女性の片寄りもなく全員仲が良く勤続年数が高い。職員全員、理念を元に入居者本位の介護の実践がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は事務所・ユニットに掲示し、職員の共有に努めている。四季を感じる豊かな自然を活かし、楽しみの多い暮らしの実現を目指しています。	法人全体の理念と、グループホーム独自の理念がある。グループホームの理念は、1階事務所と各フロアに掲示しており、職員が行き来の際、常に目のつくところにあり、周知・共有に繋がられている。	
2	(2)	○事業所と地域のつきあい 利用者が地域とのつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ対策でボランティアの受け入れや買い物の自粛しており、交流はとれていない。	近隣にある神社の春祭りの際には、のぼりや太鼓の行列が事業所のすぐ前を通ってくれるため、外に出て見ることが可能である。事業所が実施する夏祭りには、保育園児の参加がある。小学校も近くにあり、運動会や音楽発表会には見に行かせていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ対策として地域の方の受け入れはしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ対策で運営推進会議を実施できていないが、書面開催形式をとらせて頂き電話等で意見交換を行った。	2か月に一度、役場の職員・民生委員・地域包括支援センター職員・入居者家族が参加され、ホームからの状況説明とともに、意見交換を行い事業所の運営に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関する質問や変更の事項については市町村に相談し回答を得ています。状況にあわせた役場職員との相談をその都度行なっています。	運営や業務等で不明なことがある場合には、役場に問合せなど連携している。役場の保健福祉課とは電話や書類のやりとりを頻繁に行うとともに、お互い出向くこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し理解している。玄関の施錠に関しては、午前8:30~9:30午後16:30~17:30を毎日開錠しており、日によっては開錠時間を増やすようにしており、利用者が行方不明にならないように安全配慮に努めている	身体拘束適正化委員会を毎月開催し、身体拘束になる具体的な行為を正しく理解するように努めている。必要な方には、家族の了承のもと、センサーマットを利用している場合もある。玄関を開錠する際は、安全面を重視し職員を配置する時間に限っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修に参加したり施設内の勉強会や月に一度の委員会にて話しあっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用される方は居られなかったが、学ぶ機会を持ちたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居者様、家族様に十分な説明とご理解を頂き契約、解約をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には日常会話の中で探り、家族様には電話にて情報交換と意見を伺っています。意見箱を設置しています。またアンケートにより要望があれば沿うように努力しています。行政の相談窓口に関する情報を提供しています。	入居者の要望は関わりの中で汲み取る努力を行っている。家族には、入居者の状態変化があった時は電話連絡を行うとともに、月に一度、生活の様子をお便りし、意見の伺いや関係構築している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回ユニット会議を行い、管理者は職員から意見を聞き運営に反映しています。	事故予防委員会・感染症対策委員会等、様々な委員会をもうけ、職員の主体的な意見を出す機会を設けている。また、職員の希望を考慮した勤務体制もとられており、働きやすい環境が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により評価を行い面接において個人の目標や希望を聞き意欲的に取り組める環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修に参加されています。新型コロナウイルス感染の為にリモート研修に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とはリモート研修の中で交流をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報、入居時に不安や要望を聞き取りサービスを提供している。また、日常会話の中でも本人と確認しながら良い関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、家族様から傾聴しケアプランに反映しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に、本人と家族様に確認をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と本人の暮らしを共に過ごす物として信頼頂ける関係を築くよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とは電話連絡で絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の往診や受診の際、本人のご自宅付近を車中の中より見られ馴染みの場所との関係を途切れないよう支援に努めています。	入居者は地元の方が多く、知り合いがホームに来てくれることもある。通院時に、なじみの方と出会うこともあったり、なじみの美容院に、入居後も継続して利用している方もいるなど地域との関係は継続されている。家族とは、ホームの電話を使い、話す機会を持つことも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のテーブルの位置を考慮し職員が間に入ることで良い関係作りができるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族様に状態を確認し相談に応じ対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いや希望を聞き取り把握に努めます。困難な場合は本人の過去の情報を家族様に聞いています。	入居時には、以前利用した施設や担当のケアマネジャーより情報提供を受けながら、本人・家族の要望を直接聞き、意向の把握に努めている。入居後は、生活の中で日々の状況を把握及び記録しながら、本人の思いを反映できるプランニングに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族様から聞き取りをしています。その後も日常生活の会話により把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に生活する事で心身状態の変化に気付けるように努めています。またできること、できないことを把握しケアに活かしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議での意見を取り入れながら職員や家族様、本人の意向を確認しながら介護計画を作成しています。	新たに入居された方には、1か月という短い期間の介護計画を立て見直しを図り把握に努めている。ユニット会議では、本人・家族の意向を元に、スタッフ・看護師等で検討を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践内容をケースに残し、職員で共有し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに応じ対応できるように柔軟な支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響により実施が難しかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の希望により引き続きこれまでのかかりつけ医の受診や施設主治医の定期的な在宅診療で対応し、適切な医療を受けられるように支援しています。	入居前からのかかりつけ医が往診に来る場合や、こちらから通院する場合もある。また、事業所の嘱託医を希望する方もおられる。眼科や歯科などの専門医の受診への対応は、基本的に家族がされるが、事業所のスタッフが対応することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する施設看護師と連携をとり、日常の情報や気づきを伝え相談しています。また、看護師を24時間体制や健康管理をし、必要時には主治医や協力医療機関との連絡調整をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様や地域連携室と連絡を取り合い状態確認や院内カンファレンスを開催して頂き情報交換をし協働しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に関わる指針を家族様に説明しています。利用者の状態にあわせ、家族様の意向に沿い家族様・主治医・看護師・専門職等としっかりと連携し終末期ケアの実施にも努めています。	入居時にターミナルケアについての説明は行っている。重度化した際は、主治医と家族との話し合いがなされ、希望される方には看取りのケアを行っている。ターミナルケアの研修も定期的に行い、看護師との連絡体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習や看護師による勉強会、内部研修を行い応急手当や初期対応等できるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練により全職員が身につけるように努めています。地域とは消防、防災対策相互協力量を交わしています。備蓄の確保も行っています。	事業所は、高台にあるため水害の可能性は低く、地盤が強い地震への耐性も高い。避難訓練は3か月に一度実施。また、日中・夜間を想定した火災訓練も行っている。同法人の特養には水・食糧が備蓄され、停電に対応するため発電機の準備も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや声のトーンに注意し人格を尊重した声かけで対応しています。	言葉かけは敬語で行い、トーンがきつくなっていないか、やさしい言葉かけが実施できているか、職員間同士で意識しあっている。希望があれば、排泄時や入浴時に同性介助の対応も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で思いや希望を傾聴し自己決定ができるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、可能な限り希望に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一回、散髪の出張サービスで支援しています。入浴前に職員と一緒に服を選んだり、ご自分で選んでいただけるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に献立を考え、下処理や作り方、味付け、片付け等して頂いています。	ユニットの調理担当職員が、入居者の意見を聞きながら1週間分の献立を立てる。職員と同じように台所に立って調理を手伝っている方もあるが、下処理等できる範囲でのお手伝いをしてもらっている。菜園で取れたキュウリ・苺などが食卓に並ぶこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量を電子カルテに記録し栄養バランスを考慮した献立の支援をしています。食事量低下あれば、主治医や家族様に相談し栄養補助食品を購入して頂き一人ひとりの状態に応じた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけや見守り支援を行っています。ご自分でできない方は介助にて行っています。週二回の義歯洗浄や口腔委員と口腔状態の把握をし指導、教育をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	電子カルテに記録を記載し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めています。	電子カルテに記載された表を基に排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。排泄を拒否される方には、少し散歩をしてから声掛けするなど、個々に応じた対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や乳酸菌食品や食物繊維を取れる献立を考え予防に努めています。また電子カルテの記録を確認し看護師に相談を行い便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調を確認し本人の希望に応じた入浴の支援ができるように努めています。寝たきりの方には、併施設設での機械浴にて入浴して頂いています。	週に2回、入浴の好きな方に対しては週3・4回対応している。拒否傾向の方には、時間をずらしたり、日を変えたりし、タイミングを見計らって入浴されるよう対応している。状態に応じて併設の機械浴での対応も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズムに応じて休息や活動のメリハリがつく事で安眠できるよう努めています。朝の起床時間は一人ひとりその時々によって違う対応ができるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば主治医や看護師に確認しています。入居者様の状態把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味やサークル活動で役割や楽しみを持った生活やレクリエーションに参加する事で気分転換できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染対策として地域の行事には参加できませんでしたが、園内の散歩、車中からの紅葉見物や、ドライブ等の外出支援ができました。	以前は、ドライブし観光を楽しんでいたが、コロナ渦の現在は、車中から紅葉を楽しむなどの対応をしている。また、敷地内を散歩したり、事業所の栄養士が出前カフェを実施し、外気浴をしながら飲み物を楽しんでもらう支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理をされている方もおられ買い物等には支払いをされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や希望により本人が電話できるよう支援しています。職員が毎月手紙を家族様に送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭の季節の花などが観賞できたり、ホール内には季節の花や写真など飾り、共用スペースは温湿度管理をし快適に過ごせるよう工夫しています。食事の献立にも季節感を感じるよう考慮しています。	共用空間の中でも、個々の席や場所が決められており、落ち着ける配慮がなされてる。また、慣れ親しんだ仲を尊重できるような席の配慮も行っている。湿温度計をチェックし、換気するなどして、全員が快適に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごしたり、テーブルを丸く囲んだり一人ひとり過ごしやすい居場所を持って生活できるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が、それまで使っていた家具などを準備して頂き、配置なども本人の好みに配慮しています。	使い慣れたタンスや椅子などを、入居の際に持ちこんでいただくとともに、職員と入居者が配置場所・導線等を工夫し、本人にとって一番居心地のよい居室となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに応じた生活を考慮しベットの柵、椅子等保護し安全で自立した生活が送れるよう支援しています。		